5つの森林活動

みなさまの参加を お待ちしております



小手澤の森 第1・3日曜日



知足の森 第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森 小原本陣の森 草莽荘の森 不定期活動

Letter

NPO法人緑のダム北相模 midorinodam.jp



新型コロナウイルス感染拡大のため、ニュースレターは2、3月合併とさせていただきました。

【定例活動報告】

草莽荘(そうもうそう)の森

嵐山の相模湖を眼下に望む標高50mくらいの場所に、築100年の古家と 人工檜林と竹林があります。東電に勤務される岡本さんが生まれて独立す るまで育った住宅ですが、今は誰も住まれてなく空家です。岡本さんに頼 まれて緑のダムや自然を愛するハイカーに人たちに末永く使っていただき たいと言う意思で約1年前に委ねられた空家です。約1,000坪の敷地に30 坪くらいの空家と隣接する露天風呂がある素晴らしいロケーションの中に ひっそり有ります。

相模湖大橋を千木良方面に300m走ったヘアピンカーブの頂点あたりに 山側に入る細い山道が見えます。最初はあまりにも急坂で細いので軽自動車が

緑のダム北相模は相模原 市内で活動する森林ボラ ンティアです。急がず、無 理せず、楽しく、休ま ず、ボチボチと・・。





やっと通れるくらいでした。それだけではなく200m位登った場所に神社がありますが、そこから先はタイヤが滑って登れないので、歩いて登るしかない無いきわめてアドベンチャーな場所にあり、嵐山登山道の東海道自然歩道に面していて、ハイカーの楽しそうな声が聞こえる場所にあります。

昨年より早速、有志5名で空家の掃除からスタートし、その後新しく車道をシャベルカーも導入して整備しました。念のため8月、一人で寝袋を持ち込み宿泊して確認してみたが湖から吹く風が心地よく、星空がきれいでした。コロナ禍で作業が停滞していますが、2月に入り竹炭窯を作り竹炭づくりを始める準備で緑のダムの有志に集まって頂き、竹林伐採並びに1.2mに丸太切し乾燥準備を始めたところです。

草莽荘は草莽崛起からの名前で、幕末の松下塾主宰者「吉田松陰」が「在野の人よ、立ち上げれ」と呼





びかけた言葉で草莽荘は在野という事になりますかね。NPO緑のダムは嵐山の在野で生まれ日本、世界に影響を与えられる様な団体になりたいという意思を含んでいます。今後は、草莽荘を活かした活動を通して会員の増強にも貢献できれば良いなと思っています。これからも宜しく見守って頂きます様お願い致します。

小林 照夫(本会、理事)

【定例活動報告】

知足の森

緊急事態宣言が継続されているため、全員集合、という形では作業できず、フィールドまで安全に来れるなどのご家庭のご理解を得ている中高生で活動を行っています。その反面、参加者が少ないため、活動は「間伐技術の向上」をテーマに1人1本自力で間伐しています。現在取り組んでいる斜面も、直径20センチ程度、樹高も15m程度とさほど大きくないため、このテーマにも合致します。ただし、植えられてからほぼ間伐されていないのではないか、というくらい密に植えられているため、どこに向かって切っても掛かり木になることを必須です。1回目の活動では、このことに気づくまでに時間がかかり、(なんとか切れるのではないか)、2回目からは通常のロープと滑車を投入、それでもかなり手間がかかるので、3月からはチルホールを投入してみようと思います。そして、この区画は2019年の台風19号等の大雨で大量の土砂が長福寺のお墓に流れ込みました。その跡は斜面にくっきりと残っており、その部分を中心に間伐木を土留にする、というミッションも含んでおり、多様性のある森を目指すだけでなく、土砂災害を防ぐ、という使命感を持って活動をしていきます。

宮村 連理(本会、副理事長)

今回僕たちは初めて一人一本ずつ木を伐りました。ドキドキしながら受け口を作ろうと木に刃を入れるといつも切っている柔らかい木とは全く違いとても固くびっくりした。刃を進めていくうちに木の重みもかかっていき4分の一まで切るともう刃が動かなくなっていた。まだまだ切らなくてはいけないのにどうしようかと困っていると先輩が来て少し切ってみてくれた。するとあっという間に5cmも切ってしまった。5cmと聞くと短いようにも聞こえるが木の重みがかかり刃がうごかなくなってくると1cm切るだけでも5分かかってしまう。なにより驚いたのは先輩は片手でのこぎりを握り切っていたのだ。さすがに力ずくではこれは無理だ。何か工夫をしているはずだとじっくり見ていると先輩は切っているあいだのこぎりが全くぶれていなかった。刃のぶれに意識して切ってみるときるために必要な力が全く違った。これだけの

違いで切るためにひつような力がこんなに変わるのかとまた驚いてしまった。これからも先輩や友達、講 師のかた達の小さな工夫を見つけてまねしていきたい。

竹村 明洋(GREEN TECH ENGINEER LAB 中学 1 年)



桜井尚武の 「サンシュユ

森のコラム (Cornus officinalis) 山茱萸」



図1 特徴ある葉201804014

小石川植物園



図2 賑やかな花

20180315小石川植物園

20180311汐入公園

図3 可愛い十字花弁

図4 赤い実

20181103中央区スポーツセンター



図5 模様のある幹

20191103中央区スポーツセンター



ミズキ科ミズキ属の落葉小高木。1700年代に朝鮮 経由で中国からもたらされた外来樹です。対生する 葉は湾曲する葉脈が明瞭で同属のミズキやヤマボウ シ、ハナミズキなどと似ているのが特徴です(図 1)。私の観察地の南千住の汐入公園の2月初めの今 はまだ固い蕾ですが今月末から3月にかけてに、葉 がまだ出ない短枝の先端に小さな花を散状につける でしょう。花は30個内外が玉のようにまとまって着 き、この玉が樹木全体に散らばって黄金色の大きな 広がりとなって目立ちます(図2)。花弁は4枚で小 さいながらも可愛い形をしています(図3)。実は 秋に赤く大きく熟しこれがグミ(茱萸)に似ている のでこの名が中国でつけられたといいます(図 4)。この実は子房が大きくなったものではない偽 果というものだそうです。充分に熟した実は甘くお いしいのでジャムなどを作るという例がネット記事 に見られます。この実の種子を取り外して果皮を乾 かしたものが山茱萸として薬用に供されるものにな ります。樹皮には表皮が不規則に剥がれ落ちたあと にミズキの樹皮にもみられるような特徴のある模様 が残ります(図5)。

本種は中国・朝鮮に分布し、本邦に移入後全国に 広がりました。薬用や観賞用に人気があったようで す。韓国では梅に続いて咲くものとして人気が高く 花見の対象として大勢の人で賑わう鑑賞花園が整備 されているそうです。花の色は黄色というより少し 赤味を加えた黄金色でハルコガネバナとも呼ばれま す。奥多摩の里山近くではしばしば移出して花をつ けているのに出会いました。野鳥に散布されたもの でしょう。しかしまだ人家から離れた自然の中への 侵入は目立っていません。

桜井 尚武(本会、会員)

【若者の森づくり】

GREEN TECH ENGINEER LAB

東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構のラボの 一つであるGREEN TECH ENGINEERラボとの間 伐材の活用ですが、緊急事態宣言が継続され、放

課後にコンスタントに作業をすることはできてお りませんが、オンライン会議など活動は継続中で す。その中からいくつかご紹介します。一つ目は セブンイレブン記念財団さまのご支援で用意した 大学の間伐材置き場づくりです。最終完成には 至っておりませんが、あとは屋根の波板を専用の ネジで留めるだけとなっています。

他にもShopBotというコンピュータで制御する 自動ドリル(正確には3軸ルーターというそうで

す)の準備のために、ベクターデータを準備する チームもオンラインでソフトの講習会を実施して います。さらに、学校の校庭にある30年前の卒 業記念品のベンチを修復するチームも動いており ます。これはベンチ座面が木材で、左右のフレー ムは金属製でできているベンチをリメイクするた めに準備を進めております。

また、受験が終わった3年生を中心に3月14日に小金井市公民館事業で積み木イベントを計画中です。こちらは非常事態宣言が解除されなくて

も実施できると言うことで中学生たちは張り切って準備しています。学校帰りに公民館に寄ったり、公民館とオンラインミーティングを重ねたりしながら、ソーシャルディスタンスを維持したままの積み木イベントを計画しました。メインストリートの長机の周囲に移動キャスターのついた個人机上で離れて自分が住みたい家を積み木で作ります。その後、そーっと机を合わせて「森の街をつくる」と言うイベントです。定員もほぼ満員となり、当日までの直前準備段階となっています。









参加にあたって:

初参加者は、9時15分までに JR相模湖駅前に集合です。服 装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑ら ない靴 成るべく皮製手袋、 万一の怪我に備えて保険証、 飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボ ランテイア保険の準備の他、 会として可能な限りの体制を 敷いていますが「怪我・事故 は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局:〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体:セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

コンサベーション・アライアンス・ジャパン

協働団体:神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク(株)







